

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集

公表 令和6年2月27日

事業所名 社会福祉法人 麦の芽福祉会
障害児児童保育所 あみ

保護者等数 (児童数) 18(21) 回収数 17 割合 94 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応	
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	76%	18%		6%	1階、2階と分かれていることもあり、十分に確保されているとは言えない。	2F建ての子どもたちが利用するにあたって不便なところもありますが、活動内容や年齢等に応じて部屋の使い方やリラックスできるスペースの確保など再検討していきます。	
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	82%	18%				法令基準よりも加配した職員体制で対応しています。子どもたちやご家族の安心につながっていくよう、今後もさらに研修を重ね、職員がスキルアップしていけるよう努力してまいります。	
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	47%	29%	12%	12%	バリアフリーが難しい中だが工夫をされている。 階段が怖い。	建物の構造上玄関、2Fへつながる階段部分についてはバリアフリー化出来ていません。借家上難しい部分もありますが、今後必要と判断した箇所があれば検討していきます。 2Fへの階段につきましては、手すりやすべり止め等の設置等の対応も行ってはいますが、照明を明るくする、階段利用時の職員配置も含め今後も安全対策の検討を続けてまいります。	
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	100%					子どもの願いや要求を十分に引き出しきれていない。日常的にコミュニケーションをとりつつ、モニタリング時期にも対話を通してつかんでいけるように努めます。	
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	100%				毎回いろいろなことをして頂いて、とても満足しています。	それぞれの子どもたちの関心のあること、得意なことをふくらませた活動、集団づくりの視点で取り組む活動、課題にチャレンジしていく活動などを織り交ぜながら計画していますが、子どもたちの活動要求に追いついていないと感じる事もあります。 子どもたちの活動要求や意欲を引き出せるよう対話を重ね、共同しながら活動計画づくりを今後も模索していきます。	
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	35%	18%	12%	41%	必要性を感じません。	施設間の交流は行っていませんが、近くの公園で地域の子どもたちといっしょに遊ぶこともあり、日常的に交流の場になっています。	
保護者	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100%						
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	94%	6%			送迎の時など気になる事は一言伝えてもらっていて安心している。 日頃の送り迎えの時だと限られた時間の中でしか伝えられなかったりしている。	引き続き定期的なモニタリング時期にはあみでの様子、家庭での様子、学校での様子を共有しながら、支援の方向性を確認しあうように努力してまいります。 その日の活動の様子や子ども同士のかかわり、支援の内容等を日々お伝えできるように努めていますが、時間的にも十分ではないかもしれません。定期的にご家庭での様子も共有する、気になる事があればいつでも面談できるしくみを作るなど、ご家族の安心につながるよう検討を重ねていきます。	
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	100%						いつでも相談できる関係・環境づくりに今後も務めていきます。必要に応じて関係機関との連携、専門機関につなぐ等の対応もご家族といっしょに検討していきます。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	29%	29%	24%	18%			コロナ禍で活動が停止していましたが、役員経験のある保護者の方からご意見を聴き取っています。保護者同士がつながる機会を保障するためにも、再開にむけて一緒に検討し、サポートしていけるよう努めていきます。

子どもへの説明等	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	88%			12%	<p>第三者委員、苦情解決のための申請書と回収BOXの設置についてご契約時に説明させていただいています。事業所の対応に不安やご意見があった時に安心して相談していただけるような信頼関係を築いていけるように引き続き努力いたします。</p> <p>寄せられたご意見につきましては協議し、今後の改善策について丁寧に説明させていただくようにします。</p> <p>子どもからの苦情についても真摯に受け止め、対応を協議し、対話を通して改善策を提案していけるよう努めていきます。</p>
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	100%				
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	94%			6%	<p>写真がたくさん掲載されていて、日ごろの活動の様子が見られてうれしい。連絡等もあり、目を通すようにしている。</p> <p>今後もあみ通信の中で、子ども同士の育ち合いやステキな姿、活動の様子などを具体的にお伝えできるように努めていきます。</p> <p>写真掲載の可否については、ご家族の意向を確認しております。(紙面上の個人情報の取り扱いについても配慮していただくよう通信に記載しています。)</p> <p>自己評価の結果につきましてもホームページ上で確認していただけるように公開していきます。</p>
	14	個人情報に十分注意しているか	94%			6%	<p>今後も個人情報の取り扱いについては十分に気をつけて対応していくことを職員間でも定期的に確認していきます。</p>
非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	59%	6%	6%	29%	<p>マニュアルの策定はおおむね出来ていますが、保護者への説明は十分にはできていません。</p> <p>来年度に向けて、周知していただく機会をつくるように努めます。</p>
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	59%	12%		29%	<p>火災時の避難訓練については今年度建物の改築工事が4カ月にわたって行われた為、計画通り行えていません。今年度中の実施を予定しています。</p> <p>いろいろな場面(災害時対応についてはマニュアル策定中)を想定しての訓練はできていないので、来年度は年間計画を作り実施していけるように努めます。</p>
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	100%				<p>とても楽しみにしている。</p> <p>とても楽しみにしています。いつもありがとうございます。</p>
	18	事業所の支援に満足しているか	100%				<p>感謝の一言に尽きます。</p> <p>とても感謝しています。ありがとうございます。</p> <p>今後も子どもたち・ご家族の願いや思いに寄りそい、ていねいな実践を重ねていけるよう、日々努力してまいります。</p>

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表 令和6年 2月27日

事業所名 社会福祉法人 麦の芽福祉会 障害児児童保育所 あみ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		庭は狭いが、隣に広いグラウンドや公園があるので(心身ともにのびのび活動できるよう)利用する機会も多く計画している。	2F建ての子どもたちが利用するにあたって不便なところもあるが、活動内容や年齢等に応じて部屋の使い方やリラックスできるスペースの確保等再検討していく。
	2 職員の配置数は適切である	○		法令基準より加配した職員体制で、子どもたちに対応できるように努めている。	今後も定期的に研修を重ねつつ、子どもへのまなざしを深め職員のスキルアップをめざしていく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		建物構造上、玄関、階段はバリアフリー化できていない。借家上難しいところもあるが、今後必要と判断した箇所があれば検討していきたい。 階段については、手すりやすべり止めの設置等の安全対策も行っているが、照明を明るくする、階段利用時の職員配置も含め今後も安全対策の見直しを重ねていく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日の振り返りの中での検討事項については、翌日のスタッフ会議で協議し、今後の取り組みなど共有できるように努力している。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		日頃から保護者とのコミュニケーションをとるよう心がけ、なんでも相談できるような環境づくり努めている。	保護者等向け評価表の結果についてはスタッフ会議で共有・検討し、具体的な手立てを早めに提案、提示していけるように努めている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		客観的な評価・改善は必要。薩摩川内市の発達相談員に毎月の研修に入ってもらい実践面の改善にはつながっているが、事業所全体についての評価は出来ていない。薩摩川内地域本部全体での取り組みを具体化していけるよう検討を続けていく。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		毎月のスタッフ会議の中にスーパーバイザーに入ってもらい、ケース検討を含めた研修を重ねている。その他法人研修、放課後連、オンライン研修など実施。学んだあとの意見交流などを通して、学びの共有、定着が少しずつ図れるように努めている。		
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			子どもの自身の思いや願いを十分に引き出しきれていないので、日常的にコミュニケーションをとりつつ、モニタリング時期にも対話を通してつかんでいけるよう努力していく。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		季節の行事やみんなで取り組む活動については(方向性についてはスタッフが事前に検討)、スタッフと子どもたちと話し合いながら計画を具体化している。	子どもたちの活動要求や意欲を引き出せるよう対話を重ね、共同しながら活動計画づくりを今後も模索していく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		それぞれの子どもたちの関心のあること、得意なことをふくらませた活動、集団づくりの視点で取り組む活動、課題にチャレンジしていく活動などを織り交ぜながら計画している。	まだスタッフ主導になっている。子どもたちがもう少し主体的に参画できるような取り組みを模索していきたい。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日は学校後の短い時間なので、子どもたちの意向も聞きながら計画に応じて活動の提案はするが緩やかに対応している。自由に遊べる時間を保障する中で仲間とのかかわりを支援している。	長期休みに向けての支援目標や、具体的な取り組みなど早い時期から検討し、子どもたちに提案したり、子どもたちの要求とすり合わせていく事をていねいに取り組んでいきたい。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		それぞれの子どもたちや集団の課題、集団作りの視点も入れながら個別、小集団、全体集団等で活動の組み立てを工夫している。好きな活動をたっぷり楽しむことも保障している。	
15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日支援開始前に日案に基づいてそれぞれの動きや支援の留意点など共有できるようにしている。		

16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	短い時間ではあるが、子どもの姿かかわり方等について共有したり、意見交換する時間を設けるようにしている。協議が必要な事例については、翌日の昼礼にて対応を検討し共有できるように努めている。	保育時間が長くなる長期休み中の振り返り、協議の時間が十分と りづらい。共有できる時間をしくみ化していく。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	記録をもとに一人一人の長期的な変化や成長を確認出来たりやかかわりのありかたを振り返ることができるようにしている。	記録のとり方の要点を再度スタッフで確認・共有しあい、支援に生 かせるわかりやすい記録の取り方に努めていく。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○	新規利用児や子ども・家庭の状況に変化がある時には必要に応じてモニタリングの期間を調整し、計画の見直しを行うこともある。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	○		ガイドラインについてスタッフみんなで学ぶ機会を作り、実践を客観 的にとらえていく力もつけていきたい。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		必要に応じて児発管・所長が参画し、当該児とより良い支援のあり方を協議できるようにしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校との連絡・情報共有は必要に応じて早めに調整したり、確認できるように努めている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		いまのところ建物の設備上、スタッフの体制上受け入れは難しい状況にある。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		直接の事業所との連携は出来ていないが、相談支援事業所を通じて情報共有してもらっている。	必要に応じて連携を図っていける様に努めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		保護者や事業所からの依頼があった時には連携し、情報提供できるようにしている。	必要に応じて連携を図っていける様に努めていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		薩摩川内市発達専門相談員から実践に関する助言や研修を定期的に受け、日々の実践を客観的にとらえなおしたり、学びあう機会を重ねている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		事業所交流は出来ていないが、地域の子どもたちとの交流が生まれるように日常的に近くの公園に連れ出し、いっしょに遊ぶ機会を作っている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		自立支援協議会の子ども部会に定期的に参画し、他事業所と連携しつつ、地域の課題についても協議している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		お迎え時には活動の様子や仲間とかかわり(ぶつかり合いも含めて)を伝えながらその時々状況や課題、成長を共有できるように努めている。	定期的にご家庭での様子も共有する、気になる事があればいつでも面談できるしくみを作るなど、ご家族の安心につながるよう検討を重ねていく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		△		ペアレントトレーニングというスタンスではなく、共に悩み、共感しながら事業所で出来る事、家庭で出来ることをいっしょに模索していきたい。必要に応じて専門機関と連携しつつサポートしていく。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			面談は定期的実施し保護者の思いを聴く機会を大切にしている。日常的にもいつでも相談できるような関係づくりと環境づくりに今後も務めていけるようにする。必要に応じて関係機関と連携したり、専門機関につなぐ等、保護者の安心につながるような支援に努めている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		コロナ禍で活動が停止していたが、役員経験のある保護者の方からご意見を聴きつつ、保護者同士がつながる機会を保障するためにも、再開にむけて一緒に検討し、サポートしていけるよう努めていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		事業所の対応に不安やご意見があった時に安心して相談していただけるような信頼関係を築いていけるように引き続き努力していく。	寄せられた案件については協議の上、今後の改善策について丁寧に説明する場を設け。その後の経過についても確認していけるよう努める。 子どもからの苦情についても真摯に受け止め、対応を協議し対話を通して改善策を提案していけるよう努めていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月通信を通して連絡事項、活動中での子どもたちの様子やかかわりの中での成長した姿、子どもたちから学んだこと等個人情報に留意したうえで、丁寧に伝えられるよう努めている。	
	35	個人情報に十分注意している	○			今後も個人情報の取り扱いについては十分に気をつけて対応していくことを職員間でも定期的に確認していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナ禍をきっかけに地域との交流の機会(お祭りなど)が休止したままになっている。状況を見ながら地域本部全体で今後どうしていくのか検討したい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		職員間では共有しているが、保護者への説明・周知は出来ていない。マニュアルの内容を定期的に見直し、周知できるように努めていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている				毎年避難訓練は定期的に行っているが、今年度建物の改築工事が4か月にわたって行われた為、計画通り行えていない。今年度中の実施を予定している。いろいろな場面を想定しての訓練はできていないので、来年度は年間計画を作り実施していけるように努める。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止・権利擁護・身体拘束委員会実施月に情報共有、振り返り研修・セルフチェックなど定期的に取り組んでいる。意見交換や感想交流などを通して自分たちの事業所に引きよせて考えあう機会を設けている。	子どもの人権・権利条約についてさらに学びを深めていきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		虐待防止・権利擁護・身体拘束委員会実施月や研修後に情報共有、振り返り研修等を行っている。	今のところケースとしての対象者はいないが、身体拘束についてスタッフ間で学ぶ機会を重ねていきながら、丁寧に協議していけるように努めていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	指示書はないが、保護者からの情報に基づき事業所内でのアレルギーになる品目の提供はしていない。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			事例があった月には今後もスタッフ会議の中で定期的に共有していく。